



OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

# 大教大 障がい学生支援のあゆみ

## 学生

1989

### 「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」発足

参加学生が通訳活動を開始  
後にサークルで通訳活動を組織していく

講義保障活動部

・通訳のシフト調整  
・通訳者要請講習の企画

交渉部

・通訳活動について大学と交渉  
・2000年講義保障活動部に統合

会計部

・通訳者へ謝金分配

企画部/渉外部/出版広報部

・手話サークルの運営

1992～

**交渉①** ○大学に対し情報開示を要求  
○通訳者の謝金を充実  
・交通費の支給

**交渉②** ○大学と学ぶ会の連携を推進  
・大学が財務管理など  
・学ぶ会が通訳調整・養成など

**交渉③** ○大学の公的支援を追求  
・支援ルームの設置、職員の配置

コミュニケーション不足

## 大学

1981

### 「障がい者受け入れ懇談会」

各分校(天王寺・平野・池田) **初開催**  
から、全学的対応に  
障がい学生への理解は不十分だった  
この後、毎年4月に開催(~2004)

1984

### 各分校の環境整備を開始

聴覚障がい・肢体不自由学生の学習環境整備に260万円以上を投入(1987)

1992

### 柏原キャンパス統合



これより、毎年、受け入れる障がい学生の修学場所に合わせて入学前から随時環境整備し、積み増しの施設を充実させる

2004

### 国立大学法人化

学内委員会再編により、「修学上の支援に係る連絡会議」設置

2010

### 支援ルーム設置申し入れ

特別支援教育講座から、学長宛に「全国的状況」を見て、新たに設置すべきとの申し入れ

① 全学対応開始

② 施設充実

③ 組織充実

ルーム設置の社会的要請

学生と大学の連携強化

'12年4月新設

## 障がい学生修学支援ルーム

大学と学生をつなぐ架け橋になる。

障がい学生の支援に関する窓口を一本化  
'12年8月に合宿実施(音楽会・通訳研修)

音楽会  
ポスター  
参照

今後の方針

ハードは大学が整備する  
ソフトは学生とルームが共に作る